

食物有害反応とは

食物不耐性
免疫とは無関係に発生

食物アレルギー
免疫が関与

食物不耐性は初めて口にした食べ物でも発生することがあります。牛乳を飲むとお腹がゴロゴロする「乳糖不耐性」のようなもので、免疫にかかわらず体に合わない、という意味合いです。

食物アレルギーは、食べ物や食品添加物への過敏な免疫反応が原因で起こります。食事に含まれる蛋白質、中でも大きな構造の高分子蛋白質がアレルゲンになることがほとんどです。皮膚のかゆみなどが現れると食物アレルギーを疑う方が多いですが、実際は**食物アレルギーだけが原因になっていることは全体の10%未満**で、大部分はアトピー性皮膚炎などを併発しています。

《食物アレルギーの症状》

- 皮膚のかゆみ(右図がよく出る場所です)
- 嘔吐
- 下痢



《アレルゲンの特定》

● 除去食試験/負荷試験

アレルゲンが一切含まれていないフードを1~2ヶ月ほど続け、症状が落ち着くか観察します。

その間フードと水以外は与えてはいけません。

その後1品目ずつ怪しいと思われる食べ物を与えて、症状が現れたらアレルゲンと認定します。

● アレルギー検査

↳IgE検査…環境アレルゲンや食物アレルゲンに対してI型アレルギー(即時型)の反応を調べます。

↳リンパ球反応検査…食物アレルゲンに対してIV型アレルギー(遅延型)の反応を調べます。

※わんちゃん食物アレルギーでは約30%でI型アレルギー、約80%がIV型アレルギーが関与。

※血液を外部の検査センターに送って調べます。結果が出るまで1~2週間ほどかかります。

《食物アレルギー用療法食の種類》

◆ 加水分解

タンパク質の分子を小さく分解して作ったフードです。アレルギーの受容体に感知されにくくなります。

◆ ペプチド

タンパク質の分子をもっと小さくして、ペプチドという小さい単位まで分解したフードです。

◆ 新奇タンパク質

これまで摂取したことが無い珍しいタンパク質源を用いることで、アレルゲンとして認識されにくくなることが期待されます。

◆ 単一原料

通常のフードはタンパク質源、炭水化物源として複数の原材料を使用しています。

単一原料のフードは原材料を限定することでアレルギーを起こしにくくしています。